

図形領域におけるつまずきには、空間での位置関係を把握する「視覚認知能力」が大きく関係し、また「空間操作能力」等を考慮しながら、個に応じた指導の工夫をすることが必要です。認知の要素として、“視空間”“抽象・イメージ”“空間操作”“語彙”“記憶”があげられます。子どもの課題は多様であり、認知力の程度によって、図形の学習定着にも困難さがおきます。ここでは、視空間認知能力を育む学習の“位置関係”“図形の種類”、空間操作のなかでも“図形を描く・作る”の3つの分類で紹介します。